



ストーリー

新潟の片貝まつりで花火が打ち上げられる9月9日。高校生の華(はな)が半年の入院生活を終えて自宅に戻ると、兄の太郎がひきこもりになっていた。頭が良くて優しい自慢の兄は、今や妹にさえ背を向けて、2階の自室に閉じこもるようになっていたのだ。両親はなすすべもなくただ見守っているだけだったが、華は昔の兄を取り戻すべく、乱暴なまでの勢いで兄を外へ連れ出そうとする。一緒に街へ買い物に出かけ、アルバイトを見つけ、ついには片貝まつりの成人会に兄を参加させようと集会所にのりこむ華。そんな妹の健気な後押しに勇気付けられた太郎は、新聞配達として働き始め、成人会にも一人で出かけるようになり、次第に心を開いてゆく。しかし、冬も近づいたそんなある日、華が入院してしまう。白血病が再発したのだ。毎日面会に通ううちに、太郎は華にとって花火が幸せの象徴であることを知り、自らある行動を起こすことを決意する。



深い絆で結ばれた兄と妹の感動の物語

2005年の秋に放映されたテレビ・ドキュメンタリーがすべての始まりでした。新潟県中越地震の1年後を見つめるそのドキュメンタリーは、新潟県小千谷市片貝町の片貝まつりが軸となっていました。400年の伝統と世界一の四尺玉花火を誇る片貝まつりは、町民が子供の誕生や成人、還暦などを祝

して、神社に奉納する形で花火を打ち上げます。花火のひとつひとつに人生ドラマがありました。そこで紹介されたあるエピソードに、国本雅広監督は心打たれ、ぜひ映画にしようと決意します。それは、成人を迎える兄が、亡き妹のため、一年をかけて準備し、片貝まつりで花火を打ち上げる話でした。

申込み方法 往復はがきでお申込みください

(電話・ファックスによる申込みはできません)

- ※ 応募者多数の場合は抽選となります。
- ※ 申込み締切日 **7月15日必着**
- ※ ハガキ1枚につき3人(申込者含む)まで申込みます。(重複応募及び7月16日以降の到着分は無効)

往信のおもて

返信のうら

返信のおもて

往信のうら

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">往信</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">660-0051</div> <p>〒660-0051 尼崎市東七松町1-23-1 尼崎市役所内 (社) 尼崎人権啓発協会 行</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">[]-[]</div>	<p>記入なし</p> <p>こちらで結果を印字しますので記入しないで下さい。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">返信</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">[]-[]</div> <p>① 郵便番号</p> <p>申込者の</p> <p>② 住所</p> <p>③ 名前</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">[]-[]</div>	<p>〒114-8541 ハートフルin あまがさき</p> <p>① 郵便番号</p> <p>② 住所</p> <p>③ 申込者の氏名</p> <p>④ 参加人数 人 (申込者含む3人まで)</p> <p>⑤ 希望の時間を どちらか1つ記入 午前の部 又は 午後の部</p>
---	---	--	---

※ はがきの記入の際には、お間違いのないようにお願いします。